

2005.4.14 一新塾名古屋勉強会

場所：名古屋ボランティア・NPO センター

参加：近藤、宮田（記）

内容：

① 小牧山下智也議員との協力について

小牧にて税の勉強会を行っているが、実際参加者は限られてきてしまう。

むしろ一般市民に対しては、こちらから訪問しアンケート調査を実施することで意見交流と合意を図っていくことが有効なのではないか。また、賛同できるのであれば後援会ステッカーを貼ってもらうなどの工夫をすると面白いかもしれない。

議会において議員は、役人側ではなく市民側を向いて意見を述べており、もはや市民の代表としてではなく、役所の一部になっている。

また、議会の内容も役人が用意したもので、傍聴したところによると、時々読み間違えたりもしている。

このような状況を打破するためにも、市民側での動きを作る一方、若く意欲的な議員を増やし、古いしがらみで動く現在の体制を圧倒させることも考えなくてはならない。

このような意味において、山下氏の若い議員を輩出する気概は有意義で、市民に対するアンケート調査を実施していく一方、その結果や近藤さんの税の知識なども含め、レベルの高い議論及びに勉強会をしていくこともよいのではないかという意見がでた。

ここにはより意欲的な市民だけではなく、学生なども入れていき政策シンクタンクや松下村塾のようなものを作っていくことも考えられるとのこと。

② 税金の流れについて

欧州の諸国においては税の入口と出口（歳入と歳出）が（例えば環境税や付加価値税など）明確になっているものが多く、税金の使われ方が明確である。

一方、日本はガソリン税など一部を除いてはその使われ方が明確でなく、誰にとっても分かりにくく、従って説明責任の欠如や市民の無関心、無駄遣いを生んでいる。

従って、我々が望むのは、入口と出口を明確簡潔にし、その配分を市民が理解し考え決定することのできるしくみと文化である。

以上の考えを実現するためには、そのプロトタイプを作成すること、現在の社会において試しに当てはめてみることに、実際に現場に適用すること、といったプロセスが考えられるが、例えば単純に提言などを行い採用してもらおうとしたとしても、行政内部では組織が硬直しており変革は基本的にできないし、その意思決定には大きなリスクが伴い決断は難しい。

従って、市民（と若手議員）が中心となり、地方から（そして名古屋から）形を作っていくというところで話は一致した。

③ 行政サービスの選択について

現在の日本においては、税配分の選択だけでなく一部のサービスを除いては行政サービス（防衛やセーフティネットなど）の選択もままならないのが現状である。

戦後の発展途上のサービスが不足していたときはそれでよかったかもしれないが、現在は営利非営利含め多様な素晴らしいサービスが多く創出されており（またその可能性があり）、これらのネットワークによって代替することも可能ではないか。

例えば、税による配分を選択した後、クーポン発行などで、一定基準を満たしたサービスを選択するというのもアイデアとして出た。

究極的にはお役所仕事は、コンビニが窓口で、後は一定基準を満たした民間（特殊法人ではなく）がネットワークで処理する時代が来るのかもしれない。

現在コンビニとケイタイ、つまり「いつでもどこでも」の時代だが、行政サービスなどに関しても遅かれ早かれそのような時代が来るものとおもわれる。

障害となっているのは既存の枠組みとメンタル、そして新たな枠組みの未提示と信頼性・安全性の欠如であり、これらを解消、打破したところに未来がある。

今回は参加者2名ということもありかなり独善的な内容となりました。

次回は5月12日（木）開場 PM6:00、開始 PM7:00、場所は通常どおり名古屋ボランティア NPO センターです。